

のいち動物公園の理念の確認

「人も動物もいきいきと」

野市総合公園基本計画（概要、昭和61年度策定）

注：当時の概要資料を転記したうえで、一部編集加工しています。

目的

市町村と同調して、県内の子どもたちが動物と楽しく過ごすことのできる場を提供し、青少年の健全育成に資するとともに、**家族ぐるみの団らんのできる県民憩いの場**としての役割を果たし得るような自然動物公園を設置しようとするもの。

自然動物公園（一次計画）の概要

1 場所 香美郡野市町大谷（現香南市野市町大谷）

2 規模 約25ヘクタール（供用済み19.9ヘクタール）

3 動物公園の特色

飼育動物は**親しみやすい草食動物を主体に、動物が棲んでいる中でピクニックを楽しむ**新しいタイプの動物公園とする。

4 主要施設

飼育動物67種363点（哺乳類32種210点、鳥類35種153点）
動物センター、ピクニック広場、休憩所、野鳥の森、昆虫の森、
花木の森等
入場門、駐車場、動物病院、レストラン、管理施設等

5 主要動物

(1) 人気動物コーナー

- **大規模放飼**による群飼い（4種21点）
アミメキリン、グランドシマウマ、シロオリックス、ダチョウ
- 珍しいサルの群飼い（2種25点）
ワオキツネザル、チンパンジー
- 世界のカワウソコーナー（3種6点）
ヨーロッパカワウソ、カナダカワウソ、コツメカワウソ

(2) 子ども動物コーナー

- **子どもたちが触れることのできる動物**（7種61点）
ウサギ、ヤギ、ヒツジ、ポニー、ウシ、ウマ、ゾウガメ
- **子どもたちが身近に見ることが出来る動物**（5種39点）
ワラビー、アライグマ、プレーリードッグ、ミーアキャット、ペンギン

(3) 高知県の動物コーナー

- 古くから地元で飼育・繁殖されてきた動物（6種22点）※未導入
オナガドリ、東天紅、地鳥、軍鶏、チャボ、土佐犬

“人”のキーワード

- ・ 子どもたちが動物と楽しく過ごすことのできる場
- ・ 家族ぐるみの団らんのできる県民憩いの場
- ・ 動物が棲んでいる中でピクニックを楽しむ

“動物”のキーワード

- ・ 親しみやすい草食動物を主体とする
- ・ 大規模放飼
- ・ 子どもたちが触れることのできる動物
- ・ 子どもたちが身近に見ることが出来る動物

「のいち動物公園」の基本理念

「人も動物もいきいきとした動物公園」を目指して、動物の生息環境を再現したバイオーム展示とし、人が動物や植物とじかにふれ合い、自然の大切さや生命の尊さを学習する自然（環境）教育の場とするとともに日帰りレクリエーションの拠点とする。

人もいきいき

- 子どもから大人まで、年齢や障害の有無に関係なく誰もが気軽に訪れ、自然あふれる環境の中で心豊かに過ごしている動物園

学びの場

- 動物や動物園のこと、自然や生物多様性等について学ぶ
 - ・園児～高校生まで楽しめる教育プログラムを用意
 - ・大学生、専門学校生を対象とした飼育実習、獣医実習、博物館実習

やすらぎの場

- ・動物たちが与えてくれる心のやすらぎ
- ・緑豊かな園内の散策
- ・小鳥のさえずりをききながら休憩

ふれあいの場

- 動物の生きる姿にふれ、命の大切さや新たな発見を学ぶ
 - ・お食事タイム&動物ガイド
 - ・もっと！知りたいモルモット
 - ・ウマのニンジンタイム

動物もいきいき

- 人間社会で生活している動物たちの今と未来に責任を持ち動物たちの“幸福な暮らし”を実現するためにさまざまな取り組みを行っている。

動物たちの“今”を考える

- 飼育環境の中でもその動物らしく、生態に合わせた生活環境を整え、動物が肉体的にも精神的にも健康であるための取り組み
 - ・環境エンリッチメント
 - ・ハズバンドダリートレーニング

動物たちの“未来”を考える

- 動物たちの貴重な命を後世に残すために動物園（本来の生息域以外の場所で）での種の保全に取り組んでいる
 - ・日々の動物飼育で得られた貴重な情報の収集・蓄積
 - ・命をつなぐための繁殖の取り組み
 - ・高齢動物が健やかに生活できるようなケア

※【参考】高知県立のいち動物公園30周年記念誌

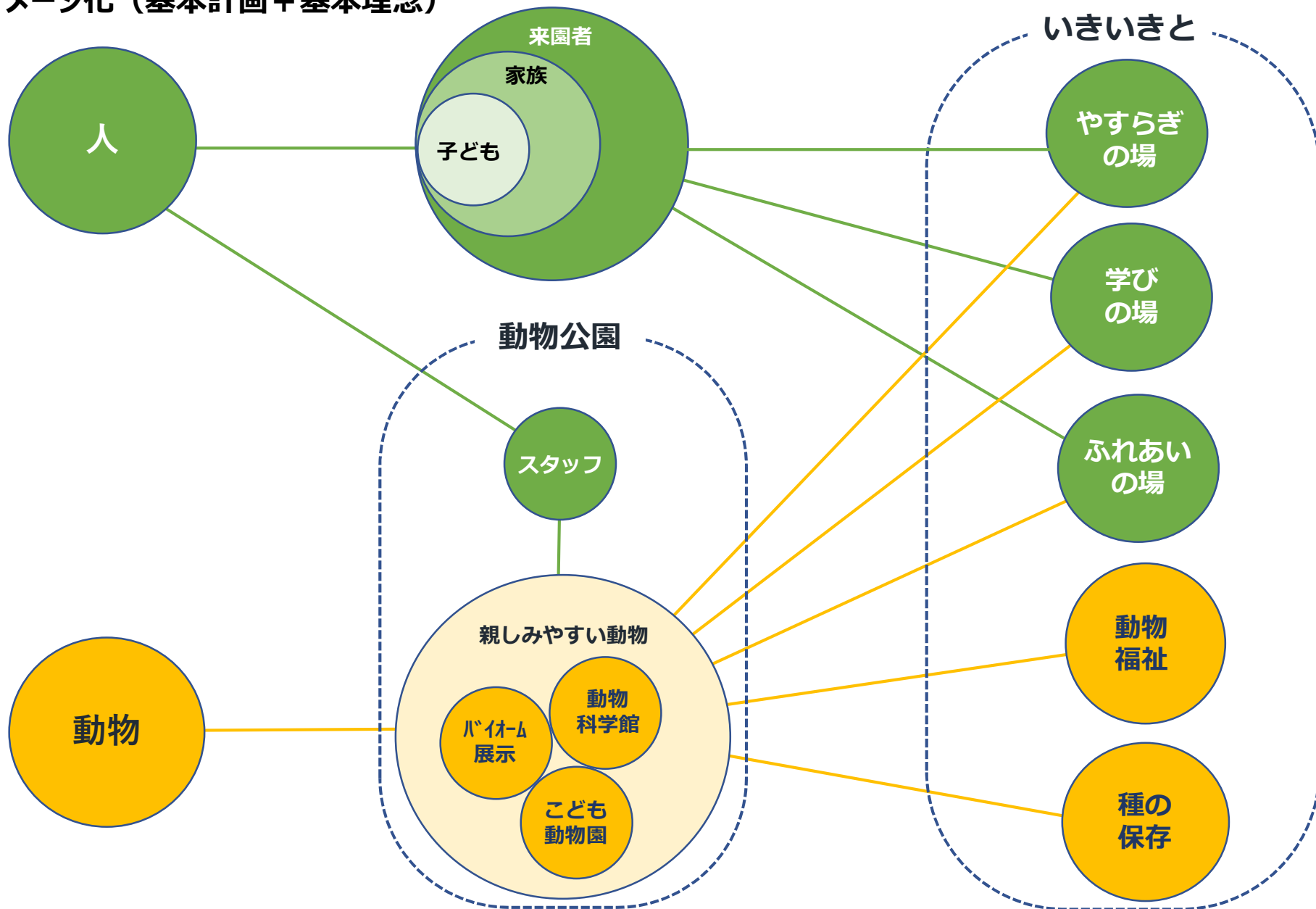
“人”のキーワード

- ・子どもから大人まで、誰もが気軽に訪れ楽しむことができる
- ・教育プログラムや実習を通して学ぶ
- ・動物や緑が与えてくれる心のやすらぎ
- ・生きる姿にふれ、命の大切さや新たな発見を学ぶ

“動物”のキーワード

- ・生態に合わせた生活環境
- ・肉体的にも精神的にも健康
- ・環境エンリッチメントやハズバンドダリートレーニング
- ・種の保存

理念のイメージ化（基本計画＋基本理念）



「人」 ⇒ 来園者 及び 動物公園スタッフ

- 子どもから大人まで、年齢や障がいの有無に関係なく誰もが気軽に訪れ、楽しむことができる動物公園を目指す。
- 動物の生活環境の確保や健康管理、動物公園の運営に携わるスタッフも含める。

「いきいき」 ⇒ 人が動植物とふれあい 心豊かに過ごすこと

- 緑豊かな園内を散策しながら、のびのびと暮らす動物たちの姿にふれることで、やすらぎを覚え心豊かに過ごす。
(来園者)
- 児童、生徒への教育プログラムや実習などを通じて、自然や生物多様性について学ぶ。
(来園者、動物公園スタッフ)
- 動物の飼育や各種イベントを通じて、動物の生きる姿とふれあうことで、命の大切さや新たな発見を学ぶ。
(来園者、動物公園スタッフ)

「動物」 ⇒ 草食動物を主体とした 親しみやすい動物

- レッサーパンダ、コツメカワウソ、チンパンジー、など
- アミメキリン、ブチハイエナ、ハシビロコウなど
- モルモットやポニーなど



「いきいき」 ⇒ 動物が本来の生態に あった生活を送ること

- 動物の健全な飼育や福祉に資する施設整備、環境エンリッチメントやハズバンダリートレーニングなど、生態にあわせた生活環境を整え、動物が肉体的にも精神的にも健康であること。(動物福祉)
- 動物公園の動物の少子高齢化の課題に対して将来に亘って命をつなぐ種の保全に取り組む。
(種の保存)